

## 大阪のサイン環境から ユニバーサルデザインを考えよう

岩田 三千子  
摂南大学

### サインとは

人の視覚や、聴覚、触覚などに働きかけて  
情報を伝達する手段の総称

対象：

まちに不案内な人、高齢者、車イス使用者、  
情報入手困難者、子供、外国人 etc.



### サイン環境とは

サインにより構成される生活環境

### ユニバーサルデザインの考え方

1. 障害の有無、年齢、性別、人種などに関わらず、  
多様な人々が容易に使い、心地よいと感じるよ  
うな製品、建築物のデザイン

ロン・メイス氏：

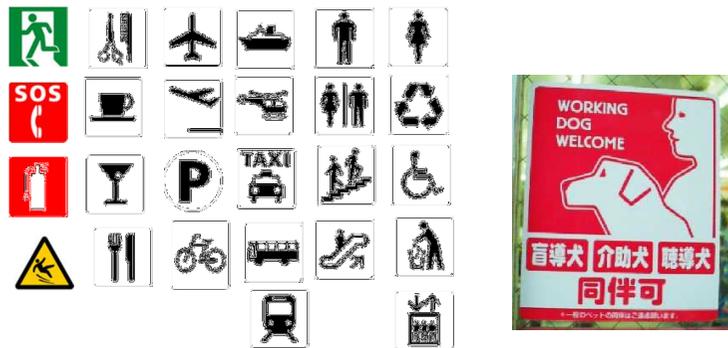
ユニバーサルデザインの7原則

2. また、これらを計画当初から試み、実現しよう  
とするデザイン手法

### 五感とサイン

- 視覚で 形、色・光、動き、・・・
- 聴覚で 音、声、音楽、・・・
- 触覚で 凹凸、温熱、振動、・・・
- 嗅覚で におい、・・・
- 味覚で 味

## 視覚



絵・文字、色、光・・・

## 聴覚



声、音・・・

## 触覚



点字、レリーフ、振動、・・・

## 嗅覚・味覚



におい、味・・・

## 海外事例

まちの案内サイン



ドイツ：フライブルク



ベルギー：アントワープ

## 海外事例

建物入り口・名称サイン



ドイツ：フライブルク



ドイツ：ケルン（中央駅）

## 海外事例

自転車道



デンマーク：コペンハーゲン



ドイツ：フライブルク

## 海外事例

誘導ライン



デンマーク：コペンハーゲン

## 海外事例

音サイン・触覚誘導



ドイツ：フライブルク



デンマーク：コペンハーゲン

## 海外事例

進行方向のサイン



デンマーク：コペンハーゲン

## 海外事例

記憶に残る色のサイン



デンマーク：オーフス

## 海外事例

記憶に残る形のサイン



ドイツ：ケルン



ドイツ：フライブルク

## 日本の事例（調査）

大阪：なんば



大阪：梅田・谷町



調査者 日本福祉のまちづくり学会特別研究委員会  
& 岩田ゼミ3-4年生（摂南大学）

## 梅田・谷町地区調査方法

- 教示
  - 『駅前第2ビルから、谷町線の「谷町4丁目」にあるパスポートセンターに行き、その後「マッセ大阪」をさがしてください』
  - A、B（県外出身）、C（やや土地鑑有り）
- チェックポイント
  - (1) 地下鉄谷町線「谷町4丁目」駅に行く
  - (2) 大阪府庁新別館北館1階エレベータ前（入り口）を確認する
  - (3) パスポートセンターに集合する
  - (4) マッセ大阪を探す

## 選択経路

モニター

- A
- B
- C



第2ビル6階談話室からエレベータでB2階へ  
「地下鉄谷町線」への誘導サインで通路へ



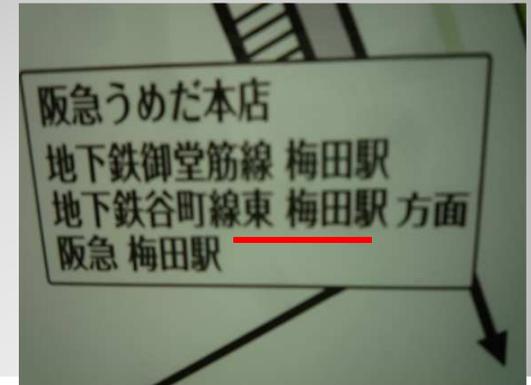
■ A

「谷町線」のサインがなくなり「地下鉄東梅田駅」のサインに変わる（認識できず）



A

「谷町線」表示が小さく見つけづらい  
→「地下鉄谷町線東\_梅田駅」を発見  
地図右下にあるが表記が変！



A

切符売場へ→東梅田駅上りホームと下りホームで入り口  
が異なることに気づく



A

ほぼAと同じ経路をたどる。  
あえて西側の遠い方のエレベータを利用したが、結果的に違いはなかった



B

左上に「谷町線」と書かれた紙が後から貼り付けられていたが、内照式照明が透過せず読みにくい



B

第2ビルから第3ビルの中を経由した点異なる



C

天井吊り下げ式の大きなサインはわかりやすいが、柱の内照式の広告の面積が大きすぎて混乱



地下鉄東梅田駅；  
切符売り場の前でウロウロしていると、駅員さんが声をかけてくれた  
→人的サポートが良い

谷町4丁目から大阪府庁新別館北館を目指す



谷町4丁目駅で下車し「大阪府庁新別館北館」の表記を探すが見当たらず、南へ歩き5番出口改札近くで地図を見て、最寄出口を1Aに修正し、北へ歩く

## 谷町4丁目駅での探索行動とサイン情報



谷町4丁目駅で下車し「大阪府庁新別館北館」の表記を探すが見当たらず



5番出口改札近くで地図を発見して場所を確認するが、スケールも、入口方向も理解できない

## 地下出口を修正し目的地をめざす



トイレの大きなサインが分かりやすい  
エスカレータの特大文字(貼り紙)に誘われて乗り、次の出口(1A)へ



Webにも掲載されている3Dっぽい地図情報だが、分かる人には分かるが分からない人には分からない



改札を出てひらすらまっすぐ歩く  
サインに本館、別館の記載はあるが新別館は無く、さらに不安に



立看板で見通しが悪く、光庭が進行方向を妨げる  
新別館北館・南館は大阪府庁とは別のもの？

複雑で似通った名称に困惑

## 地下から地上1階へ垂直移動



長〜い階段は避けて横のエスカレータを利用  
2階かと錯覚するが、「ここは1階です」



新別館北館入口に到着したが、ガラスに書かれた薄い文字情報は見つけにくい  
手作り立て看板で向かいは「南館」であることを確認



パスポートセンターが  
見当たらない  
貼紙で確認



パスポートセンター  
は目立たないように  
設計されている??

パスポートセンターを探す!



点字サインは目立たない  
場所に設置されている

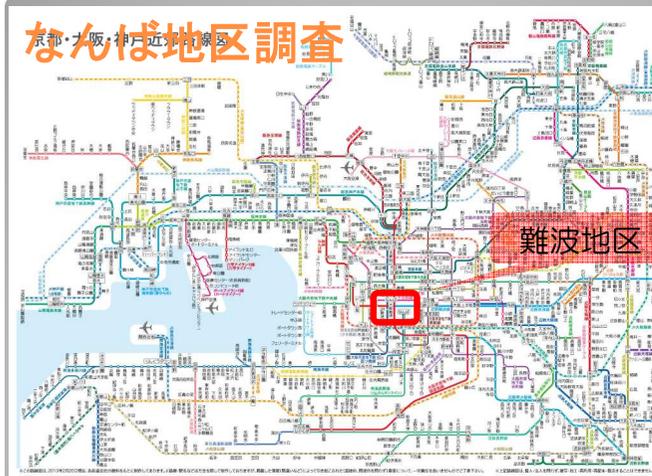


色彩調和を重視した見分けにくい  
配色により、「マッセ大阪」の記  
載が見つからない

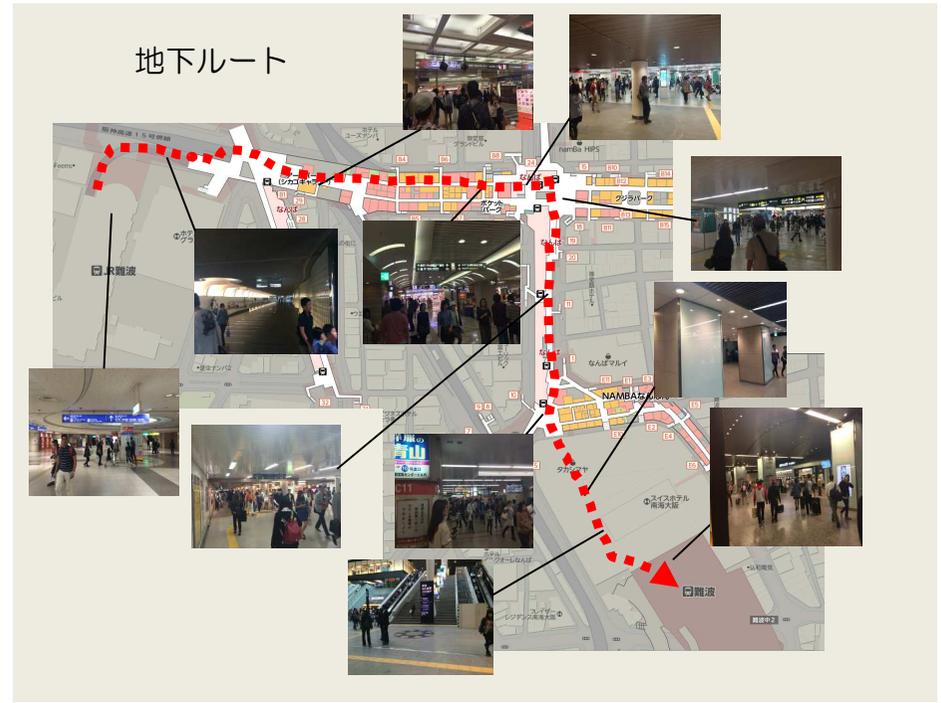
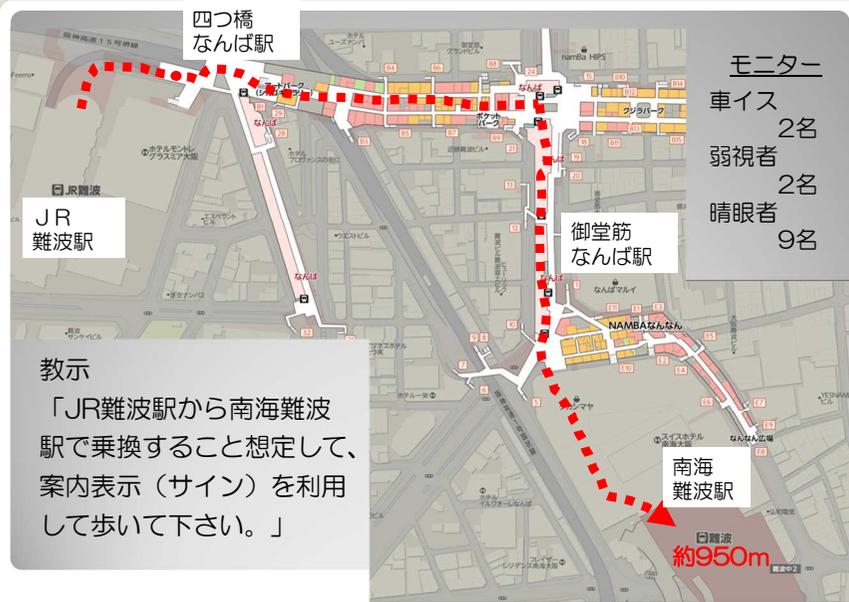
## 梅田・谷町地区調査 まとめ

- 1) 多少、土地鑑に差があっても、結果に差はない
- 2) 途中でわからなくなる原因
  - ・「谷町線」と「東梅田駅」の混在
  - ・サインの気づきにくさ、見にくさ
  - ・情報の発見しにくさ
  - ・サインの形状、色、視環境
- 3) 人的支援は有効である

## なんば地区調査



難波地区は、JR、地下鉄、南海など様々な路線が乗り入れており、乗り換えの際の迷いやすさが以前から指摘されている。地下と地上をつなぐ複雑な都市構造の中で、人々が円滑に移動するために、サイン環境が重要である

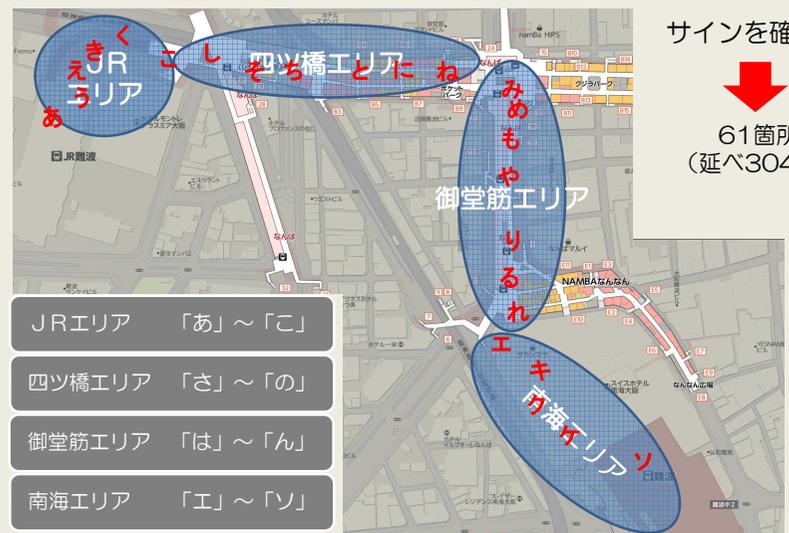


### 地上ルート



### 地下ルート 4 エリア

赤字: 7人以上回答した場所



御堂筋エリア(例)



「み」の位置でのサイン



「め」の位置でのサイン



「も」の位置でのサイン



「や」の位置でのサイン



「り」の位置でのサイン



「る」の位置でのサイン

地上ルート 1 エリア

車いす ア・イ : 2人  
ウ : 1人

サインを確認した



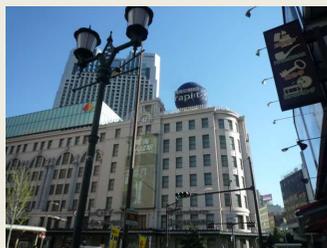
3箇所  
(延べ5人)



地上南海エリア 「ア」～「ウ」

地上南海エリア

車いす



「ア」の位置でのサイン



「イ」の位置でのサイン



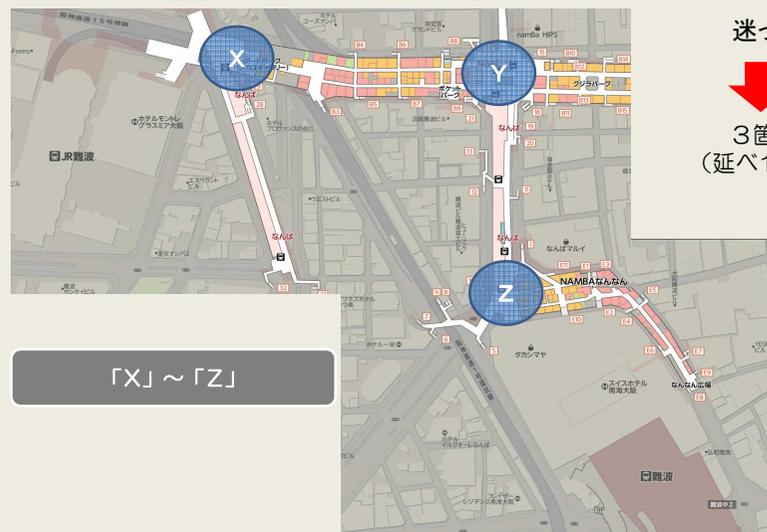
「ウ」の位置でのサイン

迷った場所 (X, Y, Z)

迷った

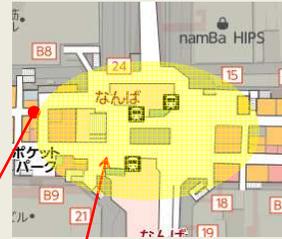
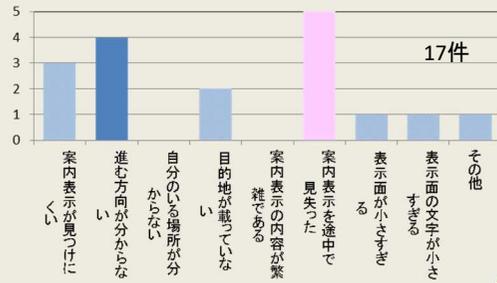


3箇所  
(延べ11人)



「X」～「Z」

## 迷った原因 (X, Y, Z)



迷った場所 Y  
(御堂筋難波北口改札前)



「南海難波駅」のサインを見失った地点

分岐が多く、サインの対応が不十分

## 御堂筋エリア ⇒ Z



表示面の反射性状によって照明の光幕反射グレアが生じた

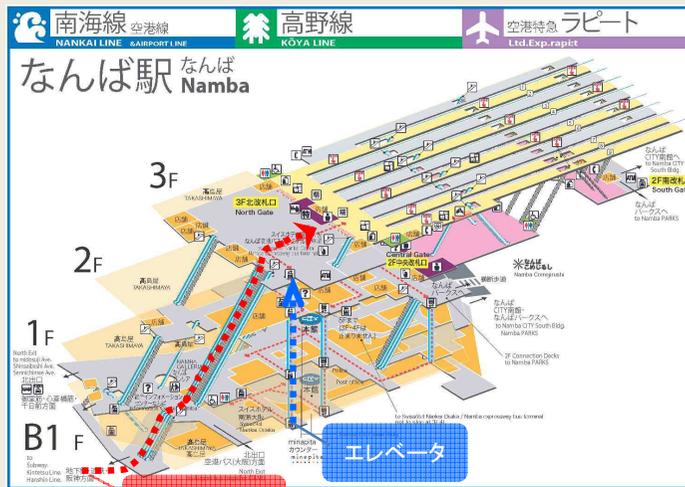
弱視者の評価が特に低くなった



被験者の進行経路にエレベーターの有効なサインがなかった

車イスの人が途中で進めなくなった

## 南海エリア 迷った場所 Z ⇒ 南海難波駅



階層の構造が複雑な場所 Z

## なんば地区 調査まとめ

- 1) 分岐が多く、サインが対応できていないことで、進む方向が分からなくなり迷い行動が生じた
- 2) 複雑な階層構造の南海難波駅のサインに、エレベーターのサインが見つけにくく、車イスの人の移動が困難であった
- 3) 表示面の「文字・図が小さい」の意見が非常に多かった
- 4) 表示面で照明の光幕反射グレアが生じ、特に、弱視者の評価が低くなった
- 5) 周囲の広告等がサインの見つけやすさを阻害していることが示唆された

ご清聴ありがとうございました